

# 互いに自己有用感を高め合うことができる学級づくり

— GoodJobメッセージを活用した振り返り活動を通して —

生徒指導・教育相談班 品川 壽栄（中学校教諭）

## 『研究の概要』

本研究は、学校生活における振り返りの場面で、学級のために役に立ったことについて、生徒が互いに他者を認め、他者から認められる経験を繰り返す中で、自己有用感が高まり、さらには互いを認め合おうとする態度を習慣化し、自己有用感を高め合える学級にできるであろうと考え、実践研究にしたものである。そのために、学級の生活の様々な場面における振り返りで、GoodJobメッセージ（以下、GJMと記す。）という級友を認める言葉を送り合う活動を計画的に繰り返し、実践に取り組んだ。

## 『実践内容』

### 互いに自己有用感を高め合う学級



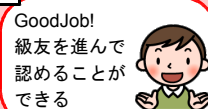
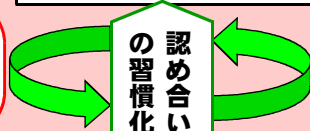
生徒同士がお互いを認め合い、自分の役割をしっかりと果たせるようになる。教師と生徒がお互い認め合う姿が見られる。

## 『認め合いの積み重ね』

- ① 体育祭の振り返り（6月）  
体育祭の振り返りで、生活班の中で「がんばったね」や「クラスのためにありがとう」など簡単なGJMを送り合った。
- ② 係活動での振り返り（9月）  
前期と後期の係の引き継ぎで、後期からは「お疲れ様」の思いを込めたGJMを送り、前期からは「GoodJob」になるための励ましの言葉を送った。
- ③ 職場体験の振り返り（10月）  
職場体験の振り返りで、職場でのお互いの働きを認め合うGJMを送り合った。
- ④ 音楽祭の振り返り（11月）  
音楽祭の振り返りで、各パートや指揮者などの持ち場でクラスへの貢献を認め合うため、より具体的な言葉でGJMを送り合った。 ↓ GJM【生徒の記述】

伴奏者として頑張ってくれてありがとう  
より 時には、フウの音を出してほめたね  
お前がいなかったら互組は時とおなかつた。  
より 互組についてありがとう。

### 認め合いの定着化



一人一人の自己有用感が高まる

### 計画的な認め合い

GJMを送り合う（学級活動）

体育祭の振り返り | 係活動の振り返り | 職場体験の振り返り | 音楽祭の振り返り

### 認め合いの基本姿勢

給食・清掃当番の振り返り（帰りの学活）

教師からの個別支援（生活ノート）

教師からのGJM

学級のために役に立って来てありがとう  
君のおかげで学級が良くなりました

一人一人の自己有用感を高めたい

役に立ちたい  
認めてもらいたい

クラスにいてもつまらない  
自分は必要とされていない



自己有用感の低下

生徒の現状

- ・他者の違いを認められない
- ・学級に満足できない
- ・いじめや不登校につながる恐れ

## 『認め合いの基礎づくり』

- ① 相手を認める基本姿勢を学べるようにするため、教師から生徒へ、学級での役割（給食当番・清掃当番）をしっかりと果たしたことを認めるGJMを送り学級掲示をする。（帰りの学活）
- ② 月に1度、生徒一人一人を認めていくために、生活ノートの感想欄の中で、学級への貢献を認めるGJMを送る。

## 『自己有用感とは』

自己有用感とは、自尊感情が高まるための1つの要因である。所属する集団の中で、他者からの評価を元に自分の価値を認識することである。自己有用感を高めることで、自分や他者を大切にしていこうとする態度が養われ、よりよい人間関係をつくっていくことができる。

## 『自己有用感の状況調査の結果』

自己有用感状況調査（栃木県教育センター）を実施し、自己有用感を構成する3つの要素「存在感」「承認」「貢献」の平均値を比較する。

要素	平均値の比較	
	10月	11月
存在感	2.45	2.61
承認	2.84	2.96
貢献	2.83	2.85

3つの要素全て高まったと考えると生徒の自己有用感が生

## 『成果』

本研究において、調査の結果や日常の様子から、GJMを送る場面を設定することにより、生徒は互いを認め合い、自己有用感を高め合うことができた。普段の生活では、掃除によく取り組む級友を進んでほめる姿も見られ、認め合う姿勢が定着してきている様子を見ることができた。

## 『課題』

生徒の自己有用感は他者から嫌なことを言われたりすると低下してしまうなど、様々な理由で低下してしまう。このような場面が起こらない学級、また、低下したとしても、級友の言葉や関わり方により、自己有用感が高められるような学級づくりを目指していきたい。

